

平成24年2月29日

従業員各位

株式会社徳・株式会社傳六  
ノリックス株式会社・有限会社和公  
代表取締役 鷲岡和徳

前略、今月も業務に専心いただきありがとうございます。  
本年はオリンピックイヤーのうるう年で2月の短い月が1日多いだけで何か  
得をした気分になるのは私だけでしょうか。3月は多くの店で春仕様の献立  
に変わり、季節の食材でお客様にさらに喜んでいただく予定です。  
さて、昨年我が国に甚大な被害を及ぼした東日本大震災の発生から早1年が  
過ぎようとしています。過日ある会にて宮城県で被災された私と同じ年齢  
ぐらいの酒蔵の社長が宴席で自社の法被を着て「震災の時は皆様に本当にお  
世話になりました。蔵は壊滅しましたが私たちは一歩ずつこの苦しみを乗り  
越えて皆様に喜ばれる酒造りを出来るだけ早く始められるよう頑張ります。  
東北人は不器用だけどコツコツと頑張ることには慣れていません。」と明るく  
話され店に残っていたお酒を私たちに感謝のしるしとふるまっていたきま  
した。私は「この東北の人たちが私たちの国を支えてきたこと、今この国に  
誇れるものがあるとすれば悲しみを抱いて歩き出す人々の自愛、不屈の精神  
である。」とその時強く感じました。その時いただいたお酒の旨さは今でも  
忘れられませんが。その日、会場に残ったお酒を個人的に購入し私どもの「懐  
石料理徳住之江本店」にて親しいお客様に無料で試飲いただいています。  
また震災発生当時にローカル局の報道で一人の家族を失った女性のがれきの  
山の向こうに光る海を見ながら「それでも私はこうして生きているのだか  
ら・・・」別の女性は「私のところは娘と対面出来て送ってやる事が出来た  
だけでも幸せでした・・・」自分の命より大切な娘を亡くして悲しくない母親、  
幸せな母親がいるわけがない。それでも今もなお遺体を捜し続けている人々  
に向かって東北の人はまずこのように気遣う。ここに東北の人たちの良識礼  
儀がある。今現在も被災地には親を亡くした子供たちがいる。子供を孫を亡  
くした親が祖父母がいる。「頑張れ」ではすまない希望の光が見えない人た  
ちが今もたくさんいる。自宅、仕事をなくし悲観に暮れるのを我慢し歩き続  
けている人が被災地には今もたくさんおられる。  
被災しなかった私たちはどうしても時間の経過とともに災害を忘れてしまう。  
世の中とは自分の痛みでなければ何事もいと簡単に片づけがちそれが当  
然であることも事実である。しかしながら被災された人たちの気持になるこ  
とは無理であってもそういう震災が現実発生し、被災された方がいるとい  
う事実は肝に銘じておかなければならない。被災地にも大阪と同じように春  
がやってくる。私たちは今ある目の前の仕事や自分に与えられた役割に対し、  
しっかりと向き合っていく。そのことの大切さを再認識する3月である。

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に新たな価値  
を創造しつづけます。」

すべては自分のために。  
すべてはお客様のために。  
すべては会社のために。  
すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう

草々